

| 変更前 (2010年8月15日実施) | 変更後 | 備考 |
|--|--|--|
| <p>汎用 JP ドメイン名登録等に関する技術細則</p> <p>社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター 公開: 2000年11月2日 改訂: 2002年2月1日</p> <p>株式会社日本レジストリサービス 改訂: 2003年3月10日 改訂: 2003年7月2日 改訂: 2004年8月17日 改訂: 2005年8月30日 改訂: 2005年12月5日 改訂: 2010年8月12日 実施: 2010年8月15日</p> | <p>汎用 JP ドメイン名登録等に関する技術細則</p> <p>社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター 公開: 2000年11月2日 改訂: 2002年2月1日</p> <p>株式会社日本レジストリサービス 改訂: 2003年3月10日 改訂: 2003年7月2日 改訂: 2004年8月17日 改訂: 2005年8月30日 改訂: 2005年12月5日 改訂: 2010年8月12日 改訂: 2010年11月16日 実施: 2011年1月16日</p> | <p>改訂日、実施日を記述</p> |
| <p>汎用 JP ドメイン名登録等に関する技術細則</p> <p>目次</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 登録可能な汎用 JP ドメイン名の文字種別と文字列 2. 汎用 JP ドメイン名の構成 3. 申請文字列の正規化 4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング 5. 制限事項 <ol style="list-style-type: none"> 5.1 ネームサーバホスト名における制限事項 5.2 電子メールアドレスにおける制限事項 5.3 URI における制限事項 6. 予約ドメイン名 <p>付録 1 互換用文字 付録 2 正規化における文字置換の方式 付録 3 正規化における文字合成の方式 付録 4 日本語文字一覧 付録 5 ABNF による汎用 JP ドメイン名の定義</p> | <p>汎用 JP ドメイン名登録等に関する技術細則</p> <p>目次</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 登録可能な汎用 JP ドメイン名の文字種別と文字列 2. 汎用 JP ドメイン名の構成 3. 申請文字列の正規化 4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング 5. 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式 6. 制限事項 <ol style="list-style-type: none"> 6.1 ネームサーバホスト名における制限事項 6.2 電子メールアドレスにおける制限事項 6.3 URI における制限事項 6.4 署名鍵における制限事項 7. 予約ドメイン名 <p>付録 1 互換用文字 付録 2 正規化における文字置換の方式 付録 3 正規化における文字合成の方式 付録 4 日本語文字一覧 付録 5 ABNF による汎用 JP ドメイン名の定義</p> | <p>JP DNSSEC サービスの導入に伴い 3 章と 4.3 節を追加。それに伴う章及び節番号の修正</p> |

| 変更前 (2010年8月15日実施) | 変更後 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------|-----|----|-----|------|---|------|------|---|------|------|---|---|----|-----|----|-----|------|---|------|------|---|------|------|---|--|
| <p>1. 登録可能な汎用 JP ドメイン名の文字種別と文字列</p> <p>汎用 JP ドメイン名における文字種別と文字列を以下に規定する。</p> <p>「ドメイン名」は、ラベルをピリオド(".")で区切って連結した文字列である。</p> <p>「ラベル」は、本技術細則により定められる ASCII ラベルおよび日本語ラベルにより構成される。</p> <p>「ASCII ラベル」は、英字("A"から"Z")、数字("0"から"9")、ハイフン("-") からなる文字列である。ただし、ASCII ラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。ASCII ラベルの長さは、63 文字以下でなければならない。ASCII ラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語ラベル」は、本技術細則により定められる日本語文字を 1 文字以上含む、日本語文字および英字("A"から"Z")、数字("0"から"9")、ハイフン("-")からなる文字列である。ただし、日本語ラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。日本語ラベルの長さは、15 文字以下でなければならない。日本語ラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語文字」は、「JIS X 0208:1997 7 ビット及び 7 ビットの 2 バイト情報交換用符号化漢字集合」(以下「JIS X 0208:1997」という)における符号表のうち、次にあげる文字により構成される。</p> <p>(1)4 区の文字(平仮名) (2)5 区の文字(片仮名) (3)16 区から 84 区の文字(漢字) (4)1 区のうち、次にあげる文字(中点、仮名又は漢字に準じるもの)</p> <table border="1" data-bbox="281 1659 593 1879"> <thead> <tr> <th>区点</th> <th>UCS</th> <th>文字</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-6</td> <td>30FB</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>1-19</td> <td>30FD</td> <td>ゝ</td> </tr> <tr> <td>1-20</td> <td>30FE</td> <td>ゞ</td> </tr> </tbody> </table> | 区点 | UCS | 文字 | 1-6 | 30FB | ・ | 1-19 | 30FD | ゝ | 1-20 | 30FE | ゞ | <p>1. 登録可能な汎用 JP ドメイン名の文字種別と文字列</p> <p>汎用 JP ドメイン名における文字種別と文字列を以下に規定する。</p> <p>「ドメイン名」は、ラベルをピリオド(".")で区切って連結した文字列である。</p> <p>「ラベル」は、本技術細則により定められる ASCII ラベルおよび日本語ラベルにより構成される。</p> <p>「ASCII ラベル」は、英字("A"から"Z")、数字("0"から"9")、ハイフン("-") からなる文字列である。ただし、ASCII ラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。ASCII ラベルの長さは、63 文字以下でなければならない。ASCII ラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語ラベル」は、本技術細則により定められる日本語文字を 1 文字以上含む、日本語文字および英字("A"から"Z")、数字("0"から"9")、ハイフン("-")からなる文字列である。ただし、日本語ラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。日本語ラベルの長さは、15 文字以下でなければならない。日本語ラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語文字」は、「JIS X 0208:1997 7 ビット及び 7 ビットの 2 バイト情報交換用符号化漢字集合」(以下「JIS X 0208:1997」という)における符号表のうち、次にあげる文字により構成される。</p> <p>(1)4 区の文字(平仮名) (2)5 区の文字(片仮名) (3)16 区から 84 区の文字(漢字) (4)1 区のうち、次にあげる文字(中点、仮名又は漢字に準じるもの)</p> <table border="1" data-bbox="1469 1659 1780 1879"> <thead> <tr> <th>区点</th> <th>UCS</th> <th>文字</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-6</td> <td>30FB</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>1-19</td> <td>30FD</td> <td>ゝ</td> </tr> <tr> <td>1-20</td> <td>30FE</td> <td>ゞ</td> </tr> </tbody> </table> | 区点 | UCS | 文字 | 1-6 | 30FB | ・ | 1-19 | 30FD | ゝ | 1-20 | 30FE | ゞ | |
| 区点 | UCS | 文字 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-6 | 30FB | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-19 | 30FD | ゝ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-20 | 30FE | ゞ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区点 | UCS | 文字 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-6 | 30FB | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-19 | 30FD | ゝ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-20 | 30FE | ゞ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 変更前 (2010年8月15日実施) | | | 変更後 | | | 備考 |
|---|------|----|---|------|----|----|
| 1-21 | 309D | ゝ | 1-21 | 309D | ゝ | |
| 1-22 | 309E | ゞ | 1-22 | 309E | ゞ | |
| 1-24 | 4EDD | 全 | 1-24 | 4EDD | 全 | |
| 1-25 | 3005 | 々 | 1-25 | 3005 | 々 | |
| 1-26 | 3006 | ヅ | 1-26 | 3006 | ヅ | |
| 1-27 | 3007 | ○ | 1-27 | 3007 | ○ | |
| 1-28 | 30FC | ー | 1-28 | 30FC | ー | |
| ----- | | | ----- | | | |
| 区点: JIS X 0208:1997 における区点番号。 | | | 区点: JIS X 0208:1997 における区点番号。 | | | |
| UCS: The Unicode Standard, Version 3.2.0(以下「Unicode」という)の符号表における文字位置を示す番号。 | | | UCS: The Unicode Standard, Version 3.2.0(以下「Unicode」という)の符号表における文字位置を示す番号。 | | | |
| 「区切り文字」は、次にあげる文字により構成される。ラベルには、区切り文字は含まれない。 | | | 「区切り文字」は、次にあげる文字により構成される。ラベルには、区切り文字は含まれない。 | | | |
| (1)「JIS X 0201:1997 7ビット及び8ビットの情報交換用符号化文字集合」(以下「JIS X 0201:1997」という)における区切り文字 | | | (1)「JIS X 0201:1997 7ビット及び8ビットの情報交換用符号化文字集合」(以下「JIS X 0201:1997」という)における区切り文字 | | | |
| 8ビット符号(16進数) UCS 図形記号 | | | 8ビット符号(16進数) UCS 図形記号 | | | |
| ----- | | | ----- | | | |
| 10/1(A1) | FF61 | 。 | 10/1(A1) | FF61 | 。 | |
| ----- | | | ----- | | | |
| 8ビット符号: JIS X 0201:1997 の8ビット符号表における位置。 | | | 8ビット符号: JIS X 0201:1997 の8ビット符号表における位置。 | | | |
| (2)JIS X 0208:1997 における区切り文字 | | | (2)JIS X 0208:1997 における区切り文字 | | | |
| 区点 | UCS | 文字 | 区点 | UCS | 文字 | |
| ----- | | | ----- | | | |
| 1-3 | 3002 | 。 | 1-3 | 3002 | 。 | |
| 1-5 | FF0E | . | 1-5 | FF0E | . | |
| ----- | | | ----- | | | |
| ドメイン名を構成する最も右側のラベルを「トップレベルドメイン名」と呼び、以下 | | | ドメイン名を構成する最も右側のラベルを「トップレベルドメイン名」と呼び、以下 | | | |

| 変更前 (2010年8月15日実施) | 変更後 | 備考 |
|--|--|----|
| <p>左へ順に「第2レベルドメイン名」、「第3レベルドメイン名」、... と呼ぶ。</p> <p>「ネームサーバホスト名」は、ネームサーバ設定の際に指定されるドメインネームサーバ(以下「ネームサーバ」という)の名称である。ネームサーバホスト名は、3 つ以上のラベルをピリオド(".")で区切って連結した文字列である。</p> <p>2. 汎用 JP ドメイン名の構成</p> <p>汎用 JP ドメイン名の構成は、次の通りである。</p> <p style="text-align: center;"><ラベル>.JP</p> <p>「ASCII ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が ASCII ラベルであるドメイン名である。ASCII ドメイン名の <ラベル> は、3 文字以上でなければならない。</p> <p>「日本語ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が日本語ラベルであるドメイン名である。日本語ドメイン名の <ラベル> は、1 文字以上でなければならない。</p> <p>3. 申請文字列の正規化</p> <p>「申請文字列」は、株式会社日本レジストリサービス(以下「当社」という)への登録申請の際に、ドメイン名およびネームサーバホスト名として指定される文字列である。</p> <p>申請文字列には本技術細則により定められる互換用文字を含んでよい(付録1「互換用文字」を参照)。</p> <p>「正規化」は、申請文字列によって構成された各文字を、後述の手順に従って変換することである。</p> <p>正規化は、ピリオド(".")または区切り文字で分割した文字列単位で行う。ラベルは正規化後の文字列である。ラベルの連結はピリオド(".")で行う。</p> <p>汎用 JP ドメイン名における正規化は、以下の手順により行う。</p> | <p>左へ順に「第2レベルドメイン名」、「第3レベルドメイン名」、... と呼ぶ。</p> <p>「ネームサーバホスト名」は、ネームサーバ設定の際に指定されるドメインネームサーバ(以下「ネームサーバ」という)の名称である。ネームサーバホスト名は、3 つ以上のラベルをピリオド(".")で区切って連結した文字列である。</p> <p>2. 汎用 JP ドメイン名の構成</p> <p>汎用 JP ドメイン名の構成は、次の通りである。</p> <p style="text-align: center;"><ラベル>.JP</p> <p>「ASCII ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が ASCII ラベルであるドメイン名である。ASCII ドメイン名の <ラベル> は、3 文字以上でなければならない。</p> <p>「日本語ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が日本語ラベルであるドメイン名である。日本語ドメイン名の <ラベル> は、1 文字以上でなければならない。</p> <p>3. 申請文字列の正規化</p> <p>「申請文字列」は、株式会社日本レジストリサービス(以下「当社」という)への登録申請の際に、ドメイン名およびネームサーバホスト名として指定される文字列である。</p> <p>申請文字列には本技術細則により定められる互換用文字を含んでよい(付録1「互換用文字」を参照)。</p> <p>「正規化」は、申請文字列によって構成された各文字を、後述の手順に従って変換することである。</p> <p>正規化は、ピリオド(".")または区切り文字で分割した文字列単位で行う。ラベルは正規化後の文字列である。ラベルの連結はピリオド(".")で行う。</p> <p>汎用 JP ドメイン名における正規化は、以下の手順により行う。</p> | |

| 変更前 (2010年8月15日実施) | 変更後 | 備考 | | | | | | | | | |
|---|--|---------|--------|--------|---|-----|---------|---|---------|---------|---|
| <p>(1)付録2「正規化における文字置換の方式」により定められる方式 (2)付録3「正規化における文字合成の方式」により定められる方式</p> <p>当社が登録するドメイン名およびネームサーバホスト名は、正規化後の文字列を使用する。正規化後の文字列に日本語文字が1文字も含まれないラベルは、ASCII ラベルとして取り扱う。</p> <p>4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング</p> <p>ネームサーバ設定の際に、対象となるドメイン名およびネームサーバホスト名に日本語ラベルが含まれている場合、本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式により正規化を行う。その正規化した日本語ラベルを Unicode に変換し、RFC5891 で定義される以下の手順によりエンコーディングした文字列と置き換える。</p> <p>(1)RFC3492 で定義されるアルゴリズムによりエンコーディングを行う (2)RFC5890 で定義されるプレフィックスを前置する</p> <p>JIS X 0208:1997 から Unicode への変換の際の対応表として、付録4「日本語文字一覧」により示される対応表を使用する。</p> | <p>(1)付録2「正規化における文字置換の方式」により定められる方式 (2)付録3「正規化における文字合成の方式」により定められる方式</p> <p>当社が登録するドメイン名およびネームサーバホスト名は、正規化後の文字列を使用する。正規化後の文字列に日本語文字が1文字も含まれないラベルは、ASCII ラベルとして取り扱う。</p> <p>4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング</p> <p>ネームサーバ設定の際に、対象となるドメイン名およびネームサーバホスト名に日本語ラベルが含まれている場合、本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式により正規化を行う。その正規化した日本語ラベルを Unicode に変換し、RFC5891 で定義される以下の手順によりエンコーディングした文字列と置き換える。</p> <p>(1)RFC3492 で定義されるアルゴリズムによりエンコーディングを行う (2)RFC5890 で定義されるプレフィックスを前置する</p> <p>JIS X 0208:1997 から Unicode への変換の際の対応表として、付録4「日本語文字一覧」により示される対応表を使用する。</p> <p>5. 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式</p> <p>「署名鍵」は、DNS のリソースレコードである DS レコードの RDATA 部である下記の(1)から(4)の4要素 (RFC4034 参照) の値を空白文字にて連結した文字列である。登録原簿には、その署名鍵の形式で記載する。</p> <p>(1)鍵タグ 対応する DNSKEY レコードから生成した整数値</p> <p>(2)アルゴリズム 対応する DNSKEY レコードのアルゴリズムを示す下記の整数値のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="1469 1701 2018 1879"> <thead> <tr> <th>整数値</th> <th>アルゴリズム</th> <th>参照 RFC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>DSA</td> <td>RFC4034</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>RSASHA1</td> <td>RFC4034</td> </tr> </tbody> </table> | 整数値 | アルゴリズム | 参照 RFC | 3 | DSA | RFC4034 | 5 | RSASHA1 | RFC4034 | <p>備考</p> <p>JP DNSSEC サービスの導入に伴う追加</p> |
| 整数値 | アルゴリズム | 参照 RFC | | | | | | | | | |
| 3 | DSA | RFC4034 | | | | | | | | | |
| 5 | RSASHA1 | RFC4034 | | | | | | | | | |

| 変更前 (2010年8月15日実施) | 変更後 | 備考 | | | | | | | | | |
|--|--|---------|-----------|--------|---|-------|---------|---|---------|---------|--|
| <p>5. 制限事項</p> <p>5.1 ネームサーバホスト名における制限事項</p> <p>ネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が"JP"の場合、そのネームサーバホスト名は、登録原簿に記載されている属性型 (組織種別型)・地域型 JP ドメイン名もしくは汎用 JP ドメイン名に含まれるものでなければならない。当社は、この制限事項に反するネームサーバホスト名を登録原簿から抹消することができる。</p> <p>ネームサーバホスト名には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) "***-" ("*"は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字)で始まるラベル</p> <p>5.2 電子メールアドレスにおける制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される電子メールアドレスのドメイン名部分(電子メールアドレスにおける"@"の右側)には、次にあげるラベルを含ん</p> | <p>6 DSA-NSEC3-SHA1 RFC5155</p> <p>7 RSASHA1-NSEC3-SHA1 RFC5155</p> <p>8 RSASHA256 RFC5702</p> <p>10 RSASHA512 RFC5702</p> <hr/> <p>(3)ダイジェストタイプ ダイジェストタイプを示す下記の整数値のいずれか</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>整数値</th> <th>ダイジェストタイプ</th> <th>参照 RFC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SHA-1</td> <td>RFC4034</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SHA-256</td> <td>RFC4509</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p>(4)ダイジェスト 対応する DNSKEY レコードのメッセージダイジェストを 16 進数で表した文字列</p> <p>6. 制限事項</p> <p>6.1 ネームサーバホスト名における制限事項</p> <p>ネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が"JP"の場合、そのネームサーバホスト名は、登録原簿に記載されている属性型 (組織種別型)・地域型 JP ドメイン名もしくは汎用 JP ドメイン名に含まれるものでなければならない。当社は、この制限事項に反するネームサーバホスト名を登録原簿から抹消することができる。</p> <p>ネームサーバホスト名には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) "***-" ("*"は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字)で始まるラベル</p> <p>6.2 電子メールアドレスにおける制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される電子メールアドレスのドメイン名部分(電子メールアドレスにおける"@"の右側)には、次にあげるラベルを含ん</p> | 整数値 | ダイジェストタイプ | 参照 RFC | 1 | SHA-1 | RFC4034 | 2 | SHA-256 | RFC4509 | <p></p> <p>章の追加に伴う修正</p> <p>章の追加に伴う修正</p> <p>章の追加に伴う修正</p> |
| 整数値 | ダイジェストタイプ | 参照 RFC | | | | | | | | | |
| 1 | SHA-1 | RFC4034 | | | | | | | | | |
| 2 | SHA-256 | RFC4509 | | | | | | | | | |

| 変更前 (2010年8月15日実施) | 変更後 | 備考 |
|--|---|---|
| <p>ではない。</p> <p>(1)"*-*-"(*)は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字)で始まるラベル (2)日本語ラベル</p> <p>5.3 URI における制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される URI のホスト名部分には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1)"*-*-"(*)は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字)で始まるラベル</p> <p>6. 予約ドメイン名</p> <p>当社は、特定の汎用 JP ドメイン名を、すべての組織が登録できないドメイン名として、ないしは特定の組織を除いて登録できないドメイン名として指定する場合がある。これを予約ドメイン名と呼ぶ。この指定および指定解除、その他の詳細は指定の都度定める。</p> <p>=====</p> <p>変更履歴 (2002年4月1日版→2003年3月20日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際化ドメイン名関連の RFC 発行に伴う改訂 ネームサーバホスト名に日本語 JP ドメイン名を利用可能とするための改訂 <p>変更履歴 (2003年3月20日版→2003年7月10日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> JIS 規格・RFC・その他の規格書にあわせた用語および表現の変更 JIS X 0208 規格のリファレンスを JIS X 0208-1990 から最新の JIS 規格である JIS X 0208:1997 に更新。これによる字形の入れ替え等、Unicode とのマッピ | <p>ではない。</p> <p>(1)"*-*-"(*)は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字)で始まるラベル (2)日本語ラベル</p> <p>6.3 URI における制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される URI のホスト名部分には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1)"*-*-"(*)は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字)で始まるラベル</p> <p>6.4 署名鍵における制限事項</p> <p>汎用 JP ドメイン名に設定された署名鍵がセキュリティやその他の問題を引き起こす可能性があるとして当社が判断した場合、当社は署名鍵を登録原簿から抹消することができる。</p> <p>7. 予約ドメイン名</p> <p>当社は、特定の汎用 JP ドメイン名を、すべての組織が登録できないドメイン名として、ないしは特定の組織を除いて登録できないドメイン名として指定する場合がある。これを予約ドメイン名と呼ぶ。この指定および指定解除、その他の詳細は指定の都度定める。</p> <p>=====</p> <p>変更履歴 (2002年4月1日版→2003年3月20日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際化ドメイン名関連の RFC 発行に伴う改訂 ネームサーバホスト名に日本語 JP ドメイン名を利用可能とするための改訂 <p>変更履歴 (2003年3月20日版→2003年7月10日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> JIS 規格・RFC・その他の規格書にあわせた用語および表現の変更 JIS X 0208 規格のリファレンスを JIS X 0208-1990 から最新の JIS 規格である JIS X 0208:1997 に更新。これによる字形の入れ替え等、Unicode とのマッピ | <p></p> <p>章の追加に伴う修正</p> <p>JP DNSSEC サービスの導入に伴う追加</p> <p>章の追加に伴う修正</p> |

| 変更前 (2010年8月15日実施) | 変更後 | 備考 |
|--|---|----------------|
| <p>ングによる影響はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性型・地域型 JP ドメイン名技術細則の用語・表現との整合 日本語ラベルとして登録可能な文字の追加 「ㇰ」「全」「ㇱ」「〇(漢数字ゼロ)」 ラベルを正規化後の文字列に限定し、定義をより厳密化。これにより本技術細則でのラベルの定義は、RFC3490 における定義とは異なる 正規化の手順をより明確に記述 日本語ドメイン名のエンコーディング方式決定に伴い、制限事項からサフィックスに関連する次のものを削除 "-**" (**は任意の1文字)で終わる文字列 "-8q9" で終わる文字列 付録の番号を技術細則中の参照順に修正 ABNF による汎用 JP ドメイン名の定義を付録へ新規に追加 <p>変更履歴 (2003年7月10日版→2004年10月18日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録者または公開連絡窓口などの申請情報のうち、URI に日本語ラベルを利用可能とするための改訂 <p>変更履歴 (2004年10月18日版→2005年8月30日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語ラベルとして登録可能な文字から、「ㇰ」(区点:1-23、UCS:3003)を削除 <p>変更履歴 (2005年8月30日版→2006年1月10日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「5.1 ネームサーバホスト名における制限事項」にネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が"JP"の場合の制限事項を追加 <p>変更履歴 (2006年1月10日版→2010年8月15日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語ラベルのエンコーディング手順のリファレンスを RFC3490 から RFC5890 および RFC5891 に更新 日本語ラベルの正規化エンコーディング手順のリファレンスを RFC3491 から本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式に更新 | <p>ングによる影響はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性型・地域型 JP ドメイン名技術細則の用語・表現との整合 日本語ラベルとして登録可能な文字の追加 「ㇰ」「全」「ㇱ」「〇(漢数字ゼロ)」 ラベルを正規化後の文字列に限定し、定義をより厳密化。これにより本技術細則でのラベルの定義は、RFC3490 における定義とは異なる 正規化の手順をより明確に記述 日本語ドメイン名のエンコーディング方式決定に伴い、制限事項からサフィックスに関連する次のものを削除 "-**" (**は任意の1文字)で終わる文字列 "-8q9" で終わる文字列 付録の番号を技術細則中の参照順に修正 ABNF による汎用 JP ドメイン名の定義を付録へ新規に追加 <p>変更履歴 (2003年7月10日版→2004年10月18日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録者または公開連絡窓口などの申請情報のうち、URI に日本語ラベルを利用可能とするための改訂 <p>変更履歴 (2004年10月18日版→2005年8月30日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語ラベルとして登録可能な文字から、「ㇰ」(区点:1-23、UCS:3003)を削除 <p>変更履歴 (2005年8月30日版→2006年1月10日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「5.1 ネームサーバホスト名における制限事項」にネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が"JP"の場合の制限事項を追加 <p>変更履歴 (2006年1月10日版→2010年8月15日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語ラベルのエンコーディング手順のリファレンスを RFC3490 から RFC5890 および RFC5891 に更新 日本語ラベルの正規化エンコーディング手順のリファレンスを RFC3491 から本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式に更新 <p>変更履歴 (2010年8月15日版→2011年1月16日版への変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式を定義 署名鍵における制限事項を追加 | <p>変更履歴を反映</p> |